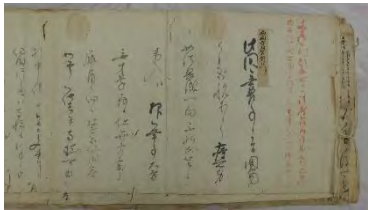


中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ①有形文化財の収集等 1) 有形文化財の収集 2) 寄贈・寄託品の受入れ等							
【年度計画】 ・ I-1-(1)-①-1) (東京国立博物館) ア ・ I-1-(1)-①-2) (5館共通) ア								
担当部課	学芸研究部列品管理課			事業責任者	課長 沖松健次郎			
【実績・成果】 (東京国立博物館) ア 購入件数26件 (内訳：絵画3件、刀剣1件、東洋絵画11件、東洋彫刻8件、東洋染織3件、決算額：262,300千円) ・ 刀剣分野の購入品「重要文化財 太刀 銘 備前国長船住左衛門尉藤原朝臣則光 於作州鷹取庄黒坂造 鷹取勘解由左衛門尉菅原朝臣泰佐打ス之 長禄参年己卯十二月十三日」は、美術刀剣としての造形が優れていると共に、銘文で作者や注文主等がわかることから、歴史資料としても貴重な作例である。当館の所蔵品には則光の作刀がなく、コレクションに加えられた意義は大きい。 ・ 絵画分野の購入品のうち高山寺伝来の「高雄曼荼羅図像」は、空海在世時に制作された現存最古の両界曼荼羅である「高雄曼荼羅」(神護寺蔵)を写した鎌倉時代の図像として現存する3例のうちのひとつであり、当館の密教図像コレクションをより充実させることができた。 (5館共通) ア 新規寄贈品件数122件 (内訳：絵画4件、染織62件、考古2件、東洋絵画17件、東洋書跡1件、東洋陶磁28件、東洋考古7件、黒田記念館収蔵品1件) ・ 東洋絵画分野では、日本の個人所有の中国絵画コレクションとして質、量ともに最大規模であり、中国絵画研究史上重要な橋本コレクションから、明代絵画15件の寄贈を受け入れた。 ・ 染織分野では、近代における着物の継承及び変化の様相を考察する上で貴重な作例計62件を収蔵品として受け入れた。 新規寄託品件数41件 (内訳：絵画6件、書跡1件、刀剣2件、陶磁24件、染織1件、東洋絵画2件、東洋彫刻2件、東洋陶磁3件) ・ 東洋絵画分野では、寄贈を受けた橋本コレクションの姉妹コレクションに位置付けられる、清代～中華民国時代の中国絵画コレクション一括 (全262点) の寄託を受け入れた。 ・ 返却34件のうち、4件 (内訳：考古2件、東洋陶磁2件) は寄贈品として受理した。								
								
【購入】高雄曼荼羅図像								
【補足事項】 ・ 5年度に購入、新規寄贈、新規寄託された作品については、6年度に新収品展にて公開する予定である。								
【評価指標】項目	5年度実績	目標値	評定		元	2	3	4
所蔵品件数	121,021件	—	—	経年変化	119,871	119,942	120,073	120,812
うち国宝	89件	—	—		89	89	89	89
うち重要文化財	650件	—	—		646	648	648	649
収是件数	209件	—	—		807	71	131	741
うち購入件数	26件	—	—		11	1	8	1
うち寄贈件数	122件	—	—		28	52	81	136
うち編入件数	61件	—	—		768	18	42	604
寄託品数	2,675件	—	—		2,591	2,651	2,651	2,668
うち新規寄託品件数	41件	—	—		29	69	30	42
長期借用品件数	660件	—	—		637	635	644	644
文化財購入費	262,300千円	—	—		279,200	200,000	570,000	88,000
【年度計画に対する総合評価】 評定：A		【判定根拠、課題と対応】 5年度は購入品として、美術刀剣として質が高いとともに歴史資料としても貴重な重要文化財の刀剣や、「高雄曼荼羅」の図像を復元、考察する上で有用な鎌倉時代の「高雄曼荼羅図像」をはじめとする、質が高くかつ展示効果が見込まれる作品をコレクションに加えることができた。 寄託については、収蔵品と関連性の高い中国絵画コレクション一括 (全262点) をはじめとして、複数の大型コレクションを受け入れることができた。また寄贈においても、明代絵画の優品15件や近代における着物の歴史を示す作例62件など、質量ともに優れた作品を受け入れたことで、コレクションを大きく充実させることができた。よって、当初の計画を大きく上回る成果を上げることができたといえ、A評価が妥当であると考えられる。						
【中期計画記載事項】 1) 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。 (東京国立博物館) 日本を中心として広くアジア諸地域等にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。 2) 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。 また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。								
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 中期計画の3年目として、着実に各分野で情報を広く収集し、展示活用が大いに見込まれる作品を受け入れることができた。特に寄託については、コレクションと関連性の高い作品を含む、4年度よりも多くの作品を受け入れることができた。 以上の実績から、中期計画を順調に遂行できているといえる。6年度以降も文化財の更なる収集に努めていきたい。						



【購入】高雄曼荼羅図像

・ 東洋絵画分野では、寄贈を受けた橋本コレクションの姉妹コレクションに位置付けられる、清代～中華民国時代の中国絵画コレクション一括 (全262点) の寄託を受け入れた。
・ 返却34件のうち、4件 (内訳: 考古2件、東洋陶磁2件) は寄贈品として受理した。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ①有形文化財の収集等 1) 有形文化財の収集 2) 寄贈・寄託品の受入れ等							
【年度計画】 ・ I-(1)-①-1) (京都国立博物館) ア ・ I-(1)-①-2) (5館共通) ア								
担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長 永島明子					
【実績・成果】 I-(1)-①-1) (京都国立博物館) ア ・ 購入件数 16件 内訳： 絵画4件、書跡1件、金工1件、陶磁8件、漆工2件 決算額 346,900,000円 ・ 5年度は、「山水図 江西龍派・心田清播賛 伝周文筆」、「山水図 鑑貞筆」、「八尾狐図 狩野探幽筆」、「源氏物語 葵絵巻」、「古文書 附 文書袋 三点」、「重要美術品 刀 銘丹波守吉道」、「緑釉鶏頭壺」、「五彩織部写手鉢」、「五彩花卉唐草人物文鉢「大明年造」銘」、「白流彩文三足香炉」、「青磁唾壺」、「三彩枕」、「青磁碗」、「青磁輪花碗」、「象象嵌蒔絵筆筒 笠翁細工」、「紋章入蒔絵飾り皿」を購入した。 I-(1)-①-2) (4館共通) ア ・ 寄贈件数 469件 内訳： 絵画108件、書跡6件、彫刻211件、金工75件、陶磁3件、漆工2件、染織23件、考古6件、歴史資料35件 ・ 寄託件数 44件 内訳： 絵画22件、書跡2件、彫刻2件、金工2件、陶磁9件、漆工1件、染織6件								
【補足事項】								
   1 8 通刀 銘丹波守吉道 一口 八尾狐図 狩野探幽筆 一幅 古文書 附 文書袋 三点 第一級第一通 西園寺公衡書状 (部分)								
【評価指標】項目	5年度実績	目標値	評定		元	2	3	4
所蔵品件数	9,011件	-	-	経年変化	8,130	8,150	8,279	8,526
うち国宝	29件	-	-		29	29	29	29
うち重要文化財	200件	-	-		200	200	200	200
収集件数	485件	-	-		55	20	129	247
うち購入件数	16件	-	-		24	9	12	8
うち寄贈件数	469件	-	-		31	11	117	239
うち編入件数	0件	-	-		0	0	0	0
寄託品件数	6,541件	-	-		6,520	6,547	6,562	6,587
うち新規寄託品件数	44件	-	-		149	43	95	74
長期借用品件数	104件	-	-	90	99	99	104	
文化財購入費	346,900千円	-	-	383,800	41,716	299,953	74,000	
【年度計画に対する総合評価】 評定：A		【判定根拠、課題と対応】 光熱水費や物価の高騰の影響も受け財政状況の厳しい下、重要美術品である伝周文筆の絵画や山城鍛冶の刀剣など、館にとって大変意義のある作品を収集方針に沿って効率的に購入、収集することができた。また、5年度はチベット仏教に関する作品406件の寄贈を受けた。これにより、チベット仏教関係の作品について国内最大級の収蔵数を誇る博物館となった。以上の成果を踏まえAと評価する。						
【中期計画記載事項】 1) 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。 (京都国立博物館) 京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。 2) 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。								
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 4年度に引き続き、文化財購入に多額の予算を配分しづらい状況が続いているが、予算の計画的な執行、大規模な作品の寄贈を通じ、良質な収蔵品を順調に収蔵できているため、Bと評価する。今後も、様々な手段を講じて、研究ならびに展示に寄与するところの大きい文化財の収集に努める。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ①有形文化財の収集等 1) 有形文化財の収集 2) 寄贈・寄託品の受入れ等							
【年度計画】 ・ I-1-(1)-①-1) (奈良国立博物館) ア ・ I-1-(1)-①-2) (5館共通) ア								
担当部課	学芸部		事業責任者		学芸部長 吉澤 悟			
【実績・成果】 (奈良国立博物館) ア 1件の文化財を購入した。 ・ 彫刻 1件：木造二十八部衆立像のうち 婆薮仙人 一軀 (5館共通) ア 寄贈 寄贈を受けた文化財は以下の5件である。 ・ 彫刻 1件：木造菩薩立像 一軀 ・ 絵画 1件：千手観音二十八部衆像 一幅 ・ 工芸 1件：木造鳳凰(法隆寺金堂天蓋附属) 模造 一軀 附 台 一基 ・ 考古 2件：複弁蓮華文軒丸瓦・偏行唐草文軒平瓦 三点、円筒埴輪(船絵線刻) 一口 寄託 寄託を受け入れたのは以下の6件である。 ・ 絵画 5件：「中西家旧蔵鶴亭画(墨竹墨蘭図・雁来紅に小禽図・芋茎図)」 十二枚(大橋秀典氏)、「紙本著色高野大師行状図画」 十卷(酒井照正氏)、「青面金剛像」 1幅 「不動明王四十八童子像」 1幅 「如意輪観音像」 1幅(西明寺) ・ 考古 1件：「西方院五輪塔(證玄墓) 納置品 證玄骨臓器、石櫃、石臼」 骨臓器 1口、石櫃 1合、石臼 1点								
【補足事項】 ・ 彫刻部門で寄贈を受けた木造菩薩立像は、明治5年(1872)興福寺が廃寺になった際に寺外に出たもので、「興福寺千体仏」と呼ばれる仏像群の1軀である。平安時代作という作品の評価に加え、伝来の経緯も考えた時、文化財の保存や継承の役割を伝える上でも大きな意義がある。当館では4年度に同じ興福寺千体仏を1件収蔵しており、寄託品の千体仏や写真資料のデータと合わせて体系的な研究が期待される。 ・ 絵画部門で寄贈を受けた千手観音二十八部衆像は、通常立姿に表される千手観音が坐り、また二十八部衆も一般的な事例と入れ替わりがあるという他に例を見ない貴重な作例であり、またかつて奈良の寺院に伝来していたことがわかる品としても重要であり、展示・研究の充実が期待される。								
 木造菩薩立像 (寄贈)  千手観音二十八部衆像 (寄贈)								
【定量的評価】 項目	5年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	元	2	3	4
所蔵品件数	1,953件	-	-		1,911	1,929	1,930	1,947
うち国宝	13件	-	-		13	13	13	13
うち重要文化財	114件	-	-		114	114	114	114
収集件数	6件	-	-		3	18	1	17
うち購入件数	1件	-	-		3	10	0	12
うち寄贈件数	5件	-	-		0	8	0	5
うち編入件数	0件	-	-		0	0	1	0
寄託品件数	1,937件	-	-		1,974	1,988	1,956	1,937
うち新規寄託品件数	6件	-	-		8	26	7	4
長期借用品件数	41件	-	-	51	41	41	41	
文化財購入費 (千円)	11,000千円	-	-	100,440	284,500	0	190,500	
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 元年度に当館が購入した木造二十八部衆立像四軀の一具とされる作品の購入に至ったことは、常日頃から広く情報収集を行っている成果であり、今後の展示及び研究において大いに役立つことが期待できる。 寄贈・寄託においては、いずれの部門も当館での展示への活用が期待される文化財を受け入れることが出来ため、年度計画を遂行できた。						
【中期計画記載事項】 体系的・通史的にバランスのとれた所蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。 (奈良国立博物館) 仏教美術及び奈良を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 5年度も、当館の収集方針に合致した作品の購入を行うことができ、収蔵品の一層の充実が図られた。 寄贈・寄託においては、当館の柱である仏教美術作品、考古資料、関西にゆかりある絵画作品の受け入れを行い、管理する収蔵品を充実させることができたため、中期計画を着実に遂行できた。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ①有形文化財の収集等 1)有形文化財の収集 2) 寄贈・寄託品の受入れ等							
【年度計画】								
・ I-1-(1)-①-1) (九州国立博物館) ア ・ I-1-(1)-①-2) (5館共通) ア								
担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長 野尻忠					
【実績・成果】 (九州国立博物館) ア 9件を購入した。 ・購入の内訳：彫刻1件、刀剣1件、染織2件、考古3件、歴史資料2件 彫刻分野においては重要文化財「男神坐像」を、刀剣分野においては重要文化財「短刀 銘左／筑州住」を購入した。「男神坐像」は12世紀の神像の特徴を顕著に示す稀少な作品であり、当館所蔵「女神坐像」(C63)と一具であったと推測される点でも重要である。 「短刀 銘左／筑州住」は九州を代表する刀工集団である左文字鍛冶の優品である。 また、琉球の紅型と図様が共通する「浅葱平地垣に梅菊文様友禅小袖」や、古活字印刷による「帝鑑図説」など、当館がテーマとする文化交流を物語る作例を購入した。 (5館共通) ア 78件の新規寄贈、2件の新規寄託があった。 ・寄贈の内訳：書跡15件、金工4件、考古資料6件、民族資料50件、歴史資料3件 書跡分野では、従来知られていなかった情報を含む中世古文書や、重要美術品に認定された後西天皇・霊元天皇の宸翰の寄贈を受けた。考古資料分野では、当館がこれまで収蔵していなかった人物埴輪と形象埴輪の3件の寄贈を受け、埴輪のコレクションの一層の充実を図ることができた。民族資料分野では、日本を含むアジアの工芸品50件の寄贈を受けた。アジア各地域の技術の共通性や多様性を紹介することができる資料群である。 ・寄託の内訳：書跡1件、刀剣1件 書跡分野では、14世紀中葉に書写された高麗写経である「大般若波羅蜜多經 卷第百二十五」(観音寺蔵)を受託した。刀剣分野では、当館近隣の宝満山周辺で作刀を行った刀工集団である金剛兵衛一派による「槍 銘盛高作」(本行院蔵)を受託した。								
								
		(購入) 重要文化財 男神坐像						
【補足事項】 5年度に所蔵、受託した作品については、その一部を6年度内に当館の文化交流展における寄贈者顕彰室及び新収品展において公開する予定である。 所蔵品件数の当館における計算方法が、4年度まで東京・京都・奈良国立博物館の3館と異なっていたため、5年度において修正した。それに伴い、下欄の経年変化の所蔵品件数の数値を修正する必要が生じたため、所蔵品件数の各項目の上段には修正後の数値を、下段の丸括弧内には修正前の数値を記載した。なお、5年度に所蔵品29件について誤記削除を行ったため、5年度実績の所蔵品件数の数値は、4年度の所蔵品件数に5年度の収集件数を加え、それから29件を引いた数値となっていることを付言する。 寄託品件数については、開館直後から生じていた件数の誤計算が5年度まで引き継がれていたため、5年度において修正した。下欄の経年変化の寄託品件数の数値には、このたび修正した数値を記載した。								
【定量的評価】項目	5年度実績	目標値	評価		元	2	3	4
所蔵品件数	18,292件	－	－	経 年 変 化	17,932 (1,279)	18,065 (1,412)	18,142 (1,489)	18,234 (1,581)
うち国宝	4件	－	－		4	4	4	4
うち重要文化財	48件	－	－		42	44	44	46
収集件数	87件	－	－		115	133	77	92
うち購入件数	9件	－	－		49	49	21	35
うち寄贈件数	78件	－	－		66	84	56	56
うち編入件数	0件	－	－		0	0	0	1
寄託品件数	1,275件	－	－		1,214	1,223	1,258	1,314
うち新規寄託品件数	2件	－	－		432	50	40	77
長期借用品件数	919件	－	－		906	1,007	968	939
文化財購入費	296,560千円	－	－	461,396	584,156	231,117	487,406	
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 日本とアジア諸地域との文化交流に関わる文化財を基軸に、分野のバランスよく収蔵品、寄贈品、寄託品を受け入れた。質量ともに優れてかつ多彩な作品を収蔵することができ、当館のコレクションの一層の充実をはかることができた。以上の成果に基づき、左記の評価とした。						



(購入) 重要文化財
男神坐像

【中期計画記載事項】 1) 体系的・通史的にバランスのとれた所蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。 (九州国立博物館) 日本とアジア諸地域等との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。 2) 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。	
【中期計画に対する評価】 評定： B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に基づき、日本とアジア諸地域等との文化交流を視覚的に示す作品を収集の基本とし、継続的に収集活動を行った。寄贈・寄託については、収蔵品の不足を補うものを中心に、慎重な事前調査・検討を行った上で受け入れた。5年度に収蔵・受入した作品は当館において積極的に活用できるものばかりで、「男神坐像」や「短刀 銘左／筑州住」はコレクションの核となるものである。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ①有形文化財の収集等 1) 有形文化財の収集 2) 寄贈・寄託品の受入れ等							
【年度計画】 ・ I-1-(1)-①-2) (5館共通) ア								
担当部課	学芸部	事業責任者	学芸部長 朝賀 浩					
【実績・成果】 国宝8件・重要文化財3件を含む国からの無償貸与品にかかる手続きについて、適切に行った。 寄贈の希望を受け、事前調査および規則の整備などの受け入れ準備を行った。 6年3月に鑑査会議を開催した。翌年度、評価額を算定のうえ受入予定。								
								
国宝 唐獅子図屏風（右隻）		収蔵庫の様子						
【補足事項】 6年3月に、文化審議会より新たに当館収蔵品について国宝1件、重要文化財4件の答申があった。								
【定量的評価】項目	5年度実績	目標値	評価		元	2	3	4
所蔵品件数	0件	—	—	経 年 変 化	—	—	—	—
うち国宝	0件	—	—		—	—	—	—
うち重要文化財	0件	—	—		—	—	—	—
収集件数	0件	—	—		—	—	—	—
うち購入件数	0件	—	—		—	—	—	—
うち寄贈件数	0件	—	—		—	—	—	—
うち編入件数	0件	—	—		—	—	—	—
寄託品件数	0件	—	—		—	—	—	—
うち新規寄託品件数	0件	—	—		—	—	—	—
長期借用品件数	6,171件	—	—		—	—	—	—
文化財購入費	0円	—	—	—	—	—	—	—
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 皇室から受け継がれた貴重な文化財を国からの無償貸与品として、適切に移管手続きを行い、管理した。 また、収蔵品の充実に向けた規則等の整備を行っており、年度計画を着実に実施したといえる。						
【中期計画記載事項】 2) 寄贈・寄託品の受入れ等 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 皇室ゆかりの貴重な文化財を恒久的に伝えていくための保存を行うべく、収蔵品の移管手続きを適切に実施した。 また、今後の寄贈・寄託品の受入について方針等の策定に向けた検討を行い、更なる収蔵品の充実に向けた取り組みを進めることができた。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 1) 有形文化財の管理		
【年度計画】 ・ I-1-(1)-②-1) (5 館共通) ア、イ、ウ (東京国立博物館) ア～キ			
担当部課	学芸企画部博物館情報課 学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長 村田良二 課長 沖松健次郎
【実績・成果】 (5 館共通) ア 収蔵庫の扉の劣化による鍵の不調に伴い、補修を行った。また、収蔵庫の整理を行い、収蔵スペースの確保に努めたほか、収蔵庫の設備充実のための調査、検討を行った。 イ 5年度は1,231件の寄託品について所在確認作業を行い、収蔵場所の確認・更新を行った。 ウ 収蔵品等に関し、新規にデジタル撮影した画像は、画像管理システムに随時登録し、データ整備を推進した。あわせて、既存基本情報の修正更新も進め、一層のデータ整備を図った。 (東京国立博物館) ア ・ 未整理・未登録であった合計61件 (彫刻1件、金工5件、漆工5件、染織20件、考古24件、民族1件、東洋民族5件) を、継続して行っている列品及び伝来未詳品の調査により、列品として編入した。 ・ 未整理の陶片資料について整理およびクリーニング処置を行い、管理状況を改善した。 ・ 髪飾具 (I-3848) の保存箱作成に伴う情報整理を行い、合計1,244点を「protoDB(列品検索データベース)」へ登録した。 ・ 館内各収蔵庫において、一部列品 (染織、東洋陶磁) の所在点検を実施した。 ・ 野外に所在する石像等の列品 (考古、東洋考古、陶磁) について情報整理と点検を行った。 ・ 国宝「埴輪 挂甲の武人」(J-36697) の修理時に判明した附属品について、「protoDB」及び「収蔵品データ管理システム」への登録を行った。 ・ 九州国立博物館に長期管理換していた作品の返却に伴い、合計278件 (金工276件、漆工1件、建築1件) の収蔵品について情報調査を行った。返却品のうち古銭に関しては調査に伴い、保存箱への整理によって保管状況の改善を行った。 ・ 船の科学館 (漆工9件)、馬の博物館 (漆工2件) に長期貸与されていた作品の返却に伴い、合計11件の収蔵品について情報調査を行った。 ・ 列品情報調査によって合計10件 (書跡2件、金工7件、考古1件) の新列品管理簿の員数修正を行った。 ・ 新列品管理簿の作品名称の点検を行い、旧台帳との対照により合計104件 (金工13件、刀剣35件、染織52件、東洋民族4件) の修正を行った。 ・ 適切な列品管理の促進のため、「protoDB 」及び列品ラベルの運用について検討を進めた。 イ 古写真・ガラス乾板などの旧資料部関係品を整理し、列品として編入するための準備を進めた。 ウ 「protoDB」においてミドルウェア等のアップデート及びこれにともなう改修を行った。また、広報媒体への掲載情報と保存カルテ情報の管理機能追加について検討を行った。 エ 2年度から3年度にかけての収蔵品等の移転作業にともない、継続して行っている列品および伝来未詳品調査のさらなる効率化をはかるため、「削除ノ分」の台帳31冊分をデータベース化し、美術品台帳検索システムに追加した。 オ 収蔵品の和古書・洋古書のデジタル化を実施し、合計19,751カットのデジタル撮影を行い、このうち89件を「東京国立博物館デジタルライブラリー」にて公開した。 カ 4×5ならびにブローニーフィルム179件のデジタル化を実施し、画像管理システムに登録した。また過去に調査研究等で撮影された未登録の写真フィルムについて、館内各部署での保管状況の照会を行った。 キ 本館から文化財管理棟への移動にともない変更となった収蔵品等の所在情報について、「protoDB」及び「収蔵品データ管理システム」の情報を更新した。また、継続して行っている列品等調査によって、伝来未詳品のうち32件を列品の一部と確認した。			
【補足事項】			
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 5年度は継続的な整理作業及び調査を通し、未整理・未登録であった作品を公開活用のため列品に編入することができた。そのほか収蔵庫の設備の充実のための作業	



上衣 朱紅地立涌日輪扇丸模様
(令和5年度編入品のうち)



上衣 朱紅地立涌日輪扇龍丸模様
(令和5年度編入品のうち)

	収蔵品の確認作業を実施し、順調に成果をあげることもできた。 データ整備については、撮影単価の高騰によりカット数が減少し、目標値を下回ったものの外部からの要望には応えることができており、protoDBの改修によってシステムの安定を図ることができた。 以上によりB評価が妥当であると判断した。
【中期計画記載事項】 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、(中略)展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。	
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の3年目として、文化財に適した環境とするため各収蔵庫の改善や、寄贈品・収蔵品・未登録品の確認・整理を引き続き行うことができたことから、中期計画を順調に遂行できていると判断した。6年度以降も中期計画に沿って施設設備の充実・改善を行うことや、収蔵品の確認作業、情報整備を継続して行っていく。 また、protoDBの改修により、稼働環境を更新して長期的に安定した運用が可能となった。和古書等のデジタル撮影については、撮影単価の高騰により、成果カット数は前中期目標期間の実績には及ばないものの、デジタル撮影の要望が大きい資料を優先しつつ、計画的に進めることができている。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 1) 有形文化財の管理		
【年度計画】 ・ I-1-(1)-②-1) (5 館共通) ア、イ、ウ、(京都国立博物館) ア、イ			
担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長 永島明子
【実績・成果】 (5 館共通) ア 収蔵庫フロア専用の台車や、作品を保管整理するため保存器材を整備するなど、収蔵庫環境を改善した。 イ 寄託品の継続手続きに伴い6月と12月に寄託品の所在確認を行った。 ウ 収蔵品及び展覧会展示作品等、7,484 件(カット)の新規デジタル撮影を行った。既存の撮影したデータのうち、8,512 件を収蔵品管理システムへ登録し、画像資料の充実を図った。 (京都国立博物館) ア 収蔵品写真等、既存フィルムを4,819 件、デジタル化した。 イ 収蔵品管理システムの改善点をまとめ、当該システムを改修した。			
【補足事項】 (5 館共通) ア 400件を超える大規模なチベット仏教に関する作品の寄贈を受けたことを踏まえ、これらの保存箱を整えるなど、収蔵庫の環境を整備した。 ウ ・ 展覧会出陳作品の撮影は、特別展「東福寺」(10月7日～12月3日)、特別展「雪舟伝説—『画聖』の誕生—」(6年4月13日～5月26日)、特別展「法然と極楽浄土」(6年10月8日～12月1日)を対象として進めた。 ・ 特集展示「茶の湯の道具 茶碗」、「新収品展」、「泉穴師神社の神像」、「弥生時代 青銅の祀り」、「雛まつりと人形—古今雛の東西—」など特集展示陳列作品の撮影を行った。 ・ 収蔵品の撮影を行い、写真資料の充実に努めた。 ・ 4年度に引き続き、大徳寺龍光院の所蔵品調査を通して写真撮影を行い、画像データの蓄積に努めた。(処理番号1411Bア) (京都国立博物館) ア 当館職員によるフィルムのスキャニング、外部委託によるデジタル化を積極的に進めた。画像を掲載中の作品については、別アングルの画像を追加し、作品情報の充実化を図るとともに、テキストデータのみであった約90件の作品について、新たに画像を掲載することで、館蔵品データベースの画像掲載率向上に努めた。 イ 4年度にリニューアルした収蔵品システムに対して、利便性を向上させるため、各機能の改善点をまとめ、業務の実情に合わせた改修を行った。			
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		 【判定根拠、課題と対応】 中性紙箱や刀袋など、作品の保管に適した器材を整え、保管環境を整備するとともに、寄託者との信頼関係継続に資するため、寄託品の所在確認を実施した。また、4年度にリニューアルした収蔵品情報蓄積の基盤となる管理システムについて、リニューアル時には気付かなかった課題や、業務効率の向上につながる改善点を1年間の業務を通じて整理し、業者と打合せを重ね、業務に寄り添った形に改修を実施することができた。以上の点からB評価とする。	
【中期計画記載事項】 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品の管理を徹底し、特に収蔵品の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品の現状を確認の上、管理に必要なデータ(画像データ、テキストデータ等)を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。			
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 中期計画の3年目として、収蔵品の増加に対応して保管器材を充実させ、収蔵庫環境の管理、整備に努めた。 また、リニューアルした収蔵品管理システムについて、当館の業務に即したシステム改修を行い、中期計画通り業務を順調に遂行できている。6年度以降も、当該システムをさらに改良するべく取り組む予定である。	

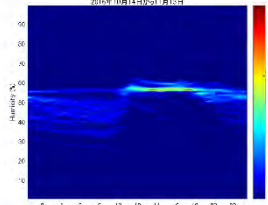


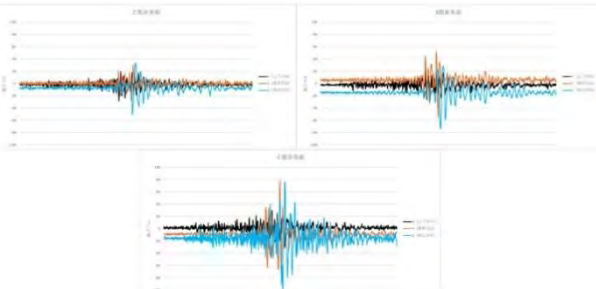
特集展示「弥生時代 青銅の祀り」

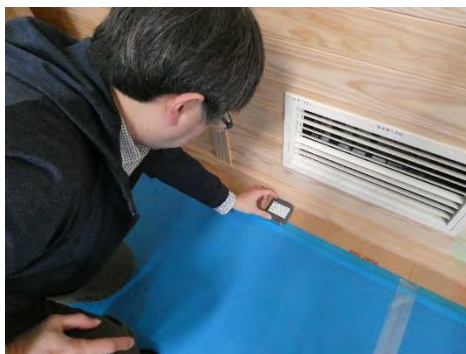
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 1) 有形文化財の管理		
【年度計画】 ・ I-1-(1)-②-1) (5館共通) ア、イ、ウ (奈良国立博物館) ア、イ、ウ			
担当部課	学芸部	事業責任者	学芸部長 吉澤 悟
【実績・成果】 (5館共通) ア 収蔵庫等の入退室管理システム及び、東館エレベーターのメーカーサポート終了に伴い、更新を行った。 イ 寄託者情報の更新や預証書の更新に伴い、寄託品の所在確認を行った。 ウ 収蔵品等の新規デジタル撮影を実施した(画像件数: 2,357件)。 (奈良国立博物館) ア 収蔵品データベースについて、新規追加や既存情報の修正などを行い、情報の充実を図った。 イ 写真情報システムの個別データを16,851件、追加登録した ウ 収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を3,189件、実施した。			
【補足事項】  エレベーター			
【年度計画に対する総合評価】 評価: B		【判定根拠、課題と対応】 入退室管理システム、エレベーターの更新を行うことで、適切な収蔵庫環境及び観覧環境を維持するための整備ができた。 収蔵品情報の整備を継続して実施するとともに、写真情報システムについては業務フローの見直しと刷新、撮影依頼フォームの導入によって作業の効率化を図り、大幅に追加登録を行うことができた。 以上の成果から、年度計画を順調に遂行できたと判断し、B評価とした。	
【中期計画記載事項】 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品の管理を徹底し、特に収蔵品の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品の現状を確認の上、管理に必要なデータ(画像データ、テキストデータ等)を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。			
【中期計画に対する評価】 評価: B		【判定根拠、課題と対応】 収蔵に必要な施設整備の充実について5年度も着実に進めた。6年度以降も、引き続き設備改善に努めていく。 ウェブサイトの収蔵品データベースで公開されている情報について、適宜修正を行い適切な内容に変更し、また公開情報を追加した。 以上の理由から、中期目標を着実に遂行できたと判断し、B評価とした。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管・次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 1) 有形文化財の管理		
【年度計画】 ・ I-1-(1)-②-1) (5館共通) ア 収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を行う。 イ 定期的に寄託品等の所在確認作業を行う。 ウ 収蔵品等に関し、新規に撮影したデジタル画像等を蓄積し、それらに関する基本情報のデータ化及びデータ整備を推進する。 (九州国立博物館) ア 収蔵品等についての情報整備と管理を行う。 イ 文化財情報(収蔵品データベース、寄託品・借用品データベース、陳列案管理データベース、画像データベース、修理履歴データベース)を一元的管理する業務システムの改善を実施する。			
担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長 野尻忠
【実績・成果】 (5館共通) ア ・ 収蔵施設の設備に関して、収蔵庫内の扉の点検を実施した。第3収蔵庫及び一時収蔵庫の扉は、閉扉時に電気鍵のエラーが頻繁に発生したため、10月の点検の際に施工業者に依頼し、調整作業を行った。また、収蔵庫内空調機器の点検を実施した。 ・ 将来の蛍光灯生産終了を見越し、また作品への負担を軽減するため、一部の収蔵庫(第9収蔵庫)の照明をLED照明に変更した。交換が困難な箇所は、周囲の照明器具の照度を高いものにすることで対応した。 ・ 収蔵庫のセキュリティを維持するため、監視カメラの機器点検及び防犯設備点検を実施した。 ・ 収蔵庫内の火災を防ぐため、防火設備及び消防設備点検を行った。 イ 寄託品458件の所在確認作業を行い、収蔵場所の情報を更新した。 ウ 専任撮影技師による2,093件(カット)の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データの整備を実施した。 (九州国立博物館) ア 文化財情報システムの運用を継続し、475件の文化財データを新規登録し、7,007件を更新した。 イ 文化財情報を管理する業務システムを点検し、システム稼働環境の改善によりセキュリティ強化を実現した。陳列案管理データベースにおいては、展示計画の変更内容を一元的に表示する機能を実装し、部署をまたぐ円滑な情報共有に寄与した。			
【補足事項】   LED照明に変更した収蔵庫の様子			
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 年度計画どおり、収蔵庫の点検を実施し、収蔵庫内の扉や照明などに対し、必要に応じた整備や修理及び調整を行った。また、寄託品の所在確認を継続して実施した。 収蔵品等のデータの登録・更新を継続し、正しい情報を参照できる状態を維持した。また、業務システムの改善により登録データの利活用を推進し、各業務の負担軽減と効率化に寄与した。	
【中期計画記載事項】 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品の管理を徹底し、特に収蔵品の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品の現状を確認の上、管理に必要なデータ(画像データ、テキストデータ等)を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。			
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 収蔵庫内の点検及び環境改善を引き続き実施した。また、作品の整理・移動作業により、作品の適切な管理並びに保管スペースの確保に努めた。4年度に引き続き、資料登録情報の更新を行い、展示や修理情報の蓄積・活用を継続し、中期計画を順調に遂行した。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 1) 有形文化財の管理		
【年度計画】 ・ I-1-(1)-②-1) (5館共通) ア、イ、ウ、(皇居三の丸尚蔵館) ア、イ			
担当部課	学芸部	事業責任者	管理・情報課長 五味 聖 調査・保存課長 高梨 真行
【実績・成果】 (5館共通) ア ・収蔵庫のゾーニングの検討を行い、靴の履き替えや掃除の徹底、トラップの設置などを行った。 イ ・三の丸尚蔵館の建替えに伴い、新施設収蔵庫の収蔵品の移設に際し、4年度に行った悉皆調査のデータに基づき、収蔵配置情報を管理システム上に反映させた。また、収蔵品管理票を作成し、すべての収蔵品に貼付を行った。 ・新施設の収蔵庫では、落下防止などに留意しながら作品を収蔵棚に配置し、温湿度管理を徹底した。 ウ ・収蔵品の新規デジタル画像1,551件の撮影を行い、管理システムへの登録およびデータの整備を行った。 ・データから管理カードをすべての作品について作成し、作品の保存管理のカルテを作成した。 (皇居三の丸尚蔵館) ア ・国有の当館の収蔵品について、文化庁等と協議・調整を行い適切に移管し、情報を整備した。 ・当館ウェブサイト収蔵品の検索・公開システムを搭載し、データを1,300件公開した。 ・機構が運営するColBaseに新たに指定を受けた収蔵品を掲載した。 イ ・当館ウェブサイト上のデジタル画像検索に、分野、作者、時代、材質、場所などから検索可能な詳細検索を設けた。 ・画像利用申請の便宜を図るため、公開システムから申請リストを作成できるようにした。			
【補足事項】			
【年度計画に対する総合評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 収蔵品の移管手続きについて文化庁・宮内庁の両者と協議し、適切に手続きを進めるとともに、全収蔵品(約6,100件)の所在を確認し、旧館に分散していた収蔵品の付属品も含むすべての箱数をデータベースに反映し、新たな収蔵庫内でより保存環境に適した配置とした。移送後の収蔵場所の確定後は、すべての箱に新たな管理番号と所管を明示したタグを付すなど、短期間で膨大な作業を完了させた。慎重を期する困難な作業であり、それを適切に実施したことは、A相当と判断した。	
【中期計画記載事項】 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品の管理を徹底し、特に収蔵品の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品の 現状を確認の上、管理に必要なデータ(画像データ、テキストデータ等)を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。			
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 新たに建設された建物内の困難な収蔵庫環境の整備を適切に行い、収蔵品を安全に移送した。現在も令和8年度の全面開館と更なる収蔵庫の整備に向けて工事が継続されており、収蔵庫の整備が途中であるが、将来的な収蔵配置を計画しており、令和8年度に向けて、更なる収蔵環境の整備計画の策定と安全な移送・保管の準備を行っている。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管・次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 2) 有形文化財の保存		
【年度計画】 ・ I-1-(1)-②-2) (5館共通) ア、イ、ウ (東京国立博物館) ア、イ、ウ			
担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長 和田浩
【実績・成果】 (5館共通) ア 全館的に害虫防除のための防虫薬剤設置を実施した。修理室 10 か所に対して除塵防黴清掃および昆虫類侵入遮断対策を実施した。 イ 収蔵品を中心とした貸与に伴い、保存カルテを 1,087 件作成した。 ウ 収蔵庫及び展示室 292 ヲ所の温湿度を計測し、それらの解析から、収蔵環境の特性評価を行った。 (東京国立博物館) ア 文化財の梱包や収納に用いられる綿状に加工されたポリエステル落下衝撃吸収特性について実験を行い、同資材の使用方法について検証した。 イ 展示ケースの新規製作に伴い、モックアップを製作し、内部の気流計測を実施した。調湿空気が効果的に展示ケース内部を循環できるような設計仕様を確定した。 特別展覧会開催時に安定した湿度環境を構築するため、特別5室のデータの収集・解析を行った。その結果を基にして、必要な加湿空気量を算出し、会期中に大型加湿器を稼働し、過度な乾燥環境を未然に回避できた。 ウ 文化財の長距離・長時間輸送時に生じる振動を連続計測した。膨大な計測値の計算処理を半自動化するコードを作成した。計算処理の結果を可視化し、従来は断続的であった振動特性の評価を、作業工程を短縮した上で、全輸送工程を対象とする評価に拡大できた。			
			
		特別 5 室の環境データ解析	展示ケース内の気流計測
【補足事項】			
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 予算の不足からIPMに関連する事業遂行がやや縮小した。一方で展示ケース内を効果的に調湿するための先進的な研究を実施することができた。また、実験を通じてこれまで未知であった文化財の梱包資材の特性を取得することに成功した。	
【中期計画記載事項】 適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。			
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 中期計画に沿った複数の重要な取り組みを成功裏に実施できた。具体的には、全館的な害虫防除のための防虫薬剤設置、修理室における除塵防黴清掃及び昆虫侵入遮断対策、収蔵品の保存カルテの作成、温湿度計測とその解析などが挙げられる。これらの取組みは、適切な展示・保存環境の保持という目標達成に寄与した。 また、文化財の梱包や収納材料の落下衝撃吸収特性に関する実験、展示ケースの内部気流計測を含むモックアップの製作、特別展覧会の安定湿度環境構築、そして文化財の長距離・長時間輸送時の振動計測の自動化といった高度な研究と技術開発を実施した。これらは文化財の保護と保存に対する取り組みをさらに深め、中期計画の目標達成に大きく寄与した。 今後の課題としては、環境評価のさらなる精度向上とリアルタイムな可視化システムの構築が挙げられる。これにより、迅速かつ効果的な環境改善対策の実施が可能となる。この課題に取り組むことで、博物館の環境管理と文化財の保存をさらに強化し、中期計画における目標達成へと繋げる。また、将来的に博物館運営の効率化及び文化財保護の質の向上に寄与するものと考えられる。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管・次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 2) 有形文化財の保存		
【年度計画】 ・ I-1-(1)-②-2) (5館共通) ア、イ、ウ (京都国立博物館) ア、イ、ウ			
担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長 永島明子 保存科学室長 降幡順子
【実績・成果】 (5館共通) ア 館内外の保存科学担当者をはじめとする関係者との連携を強化し、IPM(Integrated Pest Management)の徹底を図った。 イ 収蔵品の保存カルテを163件作成した。 ウ 平成知新館及び明治古都館、収蔵庫等について、温湿度環境モニタリング調査を実施し、空気質調査・昆虫類生息調査等の実施とそのデータ解析を行った。 (京都国立博物館) ア 平成知新館の地震対策として、建物基礎部と床免震部に振動計9台を設置し、建物と床免震装置の振動調査を実施した。能登半島地震等では、得られたデータの解析から、床免震装置が作動する震度4以上の揺れは無かったことを確認したが、一部の床免震部で震度3程度の振動を検出した。より詳細なデータ解析を実施するとともに、データ収集を継続している。 イ ・平成知新館、明治古都館、収蔵庫等の歩行性昆虫類生息調査を継続的に実施している。IPMの一環として定期的な清掃作業を実施しているが、館内図面にトラップの位置と保護数を表示することで汚染箇所を明らかにし、関係者と情報共有することで、より効果的な対策を行うことができた。 ・本館エリアは、改修時に役立てるため、展示室内の壁面および小屋裏の結露について、これまで蓄積したデータを用いてシミュレーション解析を開始した。 ウ 展示室、収蔵庫、修理所等エリアについて、通年で温湿度調査を実施し、データの蓄積を行った。温湿度モニタリングシステムの更新時期が近付いているため、包括的な新システム導入を目指し、新システム移行に関する実験を一部で実施した。館内の温湿度データ収集を行い、速やかに修理者協議会等との打ち合わせ時に周知することにより、修理業者との間で保管環境に関する意識向上と連携強化を図ることができた。			
【補足事項】  非免振部で計測した振動			
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 主として貸与に伴う点検時に行っている収蔵品の保存カルテを継続して行い、163件作成した。 平成知新館展示室・収蔵庫、東収蔵庫の一体的な温湿度環境モニタリング調査を運用するとともに空気質調査・昆虫類生息調査等を実施し、データ解析を通してエリア別の環境管理対策を実施することができた。地震等への対策として、平成知新館の振動調査を継続して実施しており、震度2以上の揺れを観測した場合、振動を記録する条件設定としているが、5年度は能登半島地震、京都府南部を震源とする地震で振動を検出することができた。施設係、財務係との連携を図りながら、展示・保管環境維持に迅速な対応ができた。	
【中期計画記載事項】 適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。			
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 各収蔵・展示施設は、空調システムが各々異なる等、複数の条件のもと、継続的なモニタリングの実施とデータ蓄積ができた。これらのモニタリングデータを適切な展示・保管環境保持のための、各施設の対策に役立てることができた。専用LAN経由によるモニタリングシステムの更新に関する試験を実施し、新しいシステム構築を進めており、館内の計測に影響がないよう今後順次更新を図っていく予定である。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 2) 有形文化財の保存		
【年度計画】 ・ I-1-(1)-②-2) (5館共通) ア、イ、ウ (奈良国立博物館) ア			
担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長 鳥越俊行
【実績・成果】 (5館共通) ア 館内における文化財害虫の生息状況を把握するため、文化財の保管及び展示に関わる箇所を中心に昆虫調査用トラップを設置しモニタリングを実施した。トラップは約2か月に1度交換し、調査結果を蓄積するとともに傾向を分析することにより IPM を推進した。文化財害虫の生息リスクのある古い展示ケースには防虫シートを設置し、収蔵場所のほこり対策には防塵マットを定期交換するなど、展示・収蔵環境の衛生保持に努めた。 イ 保存修理指導室で収蔵品情報システムまたは写真情報システムを用いて、184 件の保存カルテを作成・保管した。 ウ 無線 LAN によるリアルタイム温湿度管理システムを運用し、正倉院展のような多数の観覧者がもたらす展示環境の変化について、監視並びに即時の対応を実施した。無線式温湿度センサーは展覧会の都度設置しており、展示終了後にはデータの分析を行い今後の参考資料とするとともに、蓄積した温湿度測定データを館内環境の改善に役立てた。 (奈良国立博物館) ア 展示ケース内の粉塵調査を正倉院展終了後の11月14日に実施した。展示室の無線 LAN 温湿度管理システムによる24時間モニタリングと展示室入口のエアカーテンを適切に運用することで館内温湿度負荷の低減を図り、年間を通じて安定した温湿度環境を維持した。			
【補足事項】 (5館共通) 館内の展示室・収蔵庫や文化財保存修理所等100か所に設置している文化財害虫調査用トラップを、学芸部研究員が当番制で2か月に1回設置・回収を行った。回収したトラップに捕獲された害虫の同定は外部業者に委託し、種類や捕獲数に関する情報の蓄積を行うとともに、害虫被害が懸念される箇所を中心に対策を実施した。併せて害虫発生を防ぐための清掃等による衛生環境の改善・保持などIPMの実践につなげた。 (奈良国立博物館) 機械式自動調湿装置を内蔵した展示ケースを使用することで、多数の観覧者によるケース内の急激な温湿度変化を緩和し安定した展示環境を保つことができた。			
			
トラップ交換の様子		機械式調湿装置内蔵展示ケースでの展示	
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 4年度に引き続き、温湿度の管理、文化財害虫への対策等を実施して、文化財の管理・保存を図ることができた。計画的なIPMの徹底及び保存カルテの作成、収蔵・展示施設環境のデータ解析及び蓄積という年度の計画を、順調に進めることができたためBと評価した。	
【中期計画記載事項】 適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。			
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 管理・保存のために、温湿度・生物生息等に対する計画的な対策を実施することができ、またデータの蓄積及び解析を順調に行うことができた。以上の理由から、中期計画を着実に遂行できたと判断し、Bとした。6年度以降も展示・保存環境の把握に努め、適切に対応することにより文化財の維持・管理に努める。	

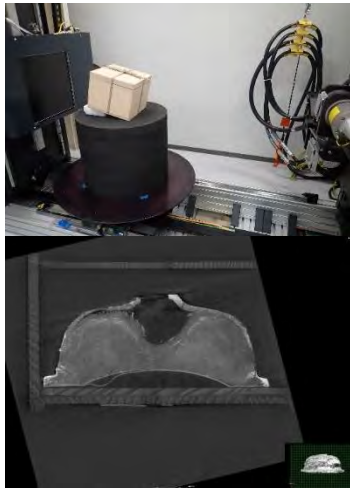
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管・次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 2) 有形文化財の保存		
【年度計画】 ・ I-1-(1)-②-2) (5館共通) ア、イ、ウ、(九州国立博物館) ア			
担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長 木川りか
【実績・成果】 (5館共通) ア IPMの考え方にに基づき、館内各エリアの温湿度管理、粘着トラップによるモニタリング及び清掃を徹底し、必要に応じて有害生物処理13件を実施した。 イ 収蔵品の保存カルテ90件を作成した。 ウ 文化財の展示・収蔵環境における温湿度や揮発性有機化合物濃度(VOC)の計測を継続して行い、蓄積したデータを基に館内の環境保全に努めるとともに、より適切な展示・収蔵環境を作り出すための各種手法を検討した。 (九州国立博物館) ア 展示室や収蔵庫、バックヤードの温湿度データを連続計測し、蓄積したデータを活用して適切な展示・収蔵環境の維持、改善を図った。また、粘着トラップを館内全域に設置し毎月交換・観察することで、昆虫の侵入、棲息状況を把握し文化財害虫に対して早期に対処することができた。また、館内に搬入される文化財及び資材の生物処理を行うことで、収蔵品等への生物被害を未然に防ぐことができた。			
(補足事項) (九州国立博物館) ア ・ 展示・収蔵空間及びバックヤードに毛髪式自記記録計や温湿度データロガーを設置し、測定結果をモニタリングすることで、作品の材質に合わせた適切な温湿度環境を維持した。 ・ 館内全域約430か所に粘着トラップを設置し、月1回の定期的な交換・観察による捕獲虫モニタリングを実施した。 ・ 一般来館者エリアやバックヤードなど、館内各エリアにつき年2回程度の徹底清掃を実施し、害虫の発生要因を低減した。また、館内職員・館内業務を請け負う事業者向けにIPM研修を開催し、対策の重要性を周知した。 ・ 文化財害虫を館内に持ち込まないために、搬入される文化財及び資材に対し、材質に応じて適宜、低酸素濃度処理、二酸化炭素処理、低温処理等の、化学薬剤を使用しない生物処理を実施した。 ・ 館内の環境保全には地元NPO法人や環境ボランティアによる協力を得た。前者による文化財の移動導線周辺のメンテナンスや粘着トラップの観察、壁付展示ケース用循環ファンの定期的なクリーニング、後者による粘着トラップの作成や一般来館者エリアの粘着トラップの設置・交換、調湿材の整理などを実施した。			
			
バックヤードエリアの徹底清掃の様子		大型冷凍庫による低温処理の様子	
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 展示・収蔵空間及びバックヤードにおける温湿度、捕獲虫、空気質等の保存環境に関するデータを継続的・継続的に蓄積し、適切な展示・収蔵環境の維持・改善を図った。展示やイベントに伴い搬入される文化財及び資材に対し、適切な方法で生物処理を実施し、収蔵品への生物被害を未然に防ぐことができた。	
【中期計画記載事項】 適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。			
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 中期計画に基づき、収蔵品・展示品等の保存環境に関するデータを継続的に収集し、適切な展示・収蔵環境の維持・改善に役立てた。文化財の材質ごとに最適な温湿度管理や、適切な有害生物管理により、文化財の劣化を防ぐための対策を計画的に実施することができた。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 2) 有形文化財の保存		
【年度計画】 ・ I-1-(1)-②-2) (5館共通) ア、イ、ウ、(皇居三の丸尚蔵館) ア			
担当部課	調査・保存課	事業責任者	調査・保存課長 高梨真行
【実績・成果】 (5館共通) ア 収蔵品等の生物被害等を防止するため、館内ゾーニングの徹底、全館の環境調査、その調査結果に基づいた研究員による清掃およびI P M (総合的有害生物管理) を実施した。 イ 全収蔵品約6,100件についての保存カルテを整備し、展覧会等の他機関への貸与に際して、179件分の保存状況の情報について充実させた。 ウ 収蔵・展示施設に関する環境について、定期的な環境データの測定、調査を実施し、その結果を分析・蓄積し、環境についての問題点を見つけ、早期に対応した。 (皇居三の丸尚蔵館) ア 館内の生物生息調査は年2回の生物トラップによる調査(101箇所)、年2回の付着菌調査(27箇所)を実施し、データを蓄積している。			
			
収蔵庫内清掃の様子		空気環境測定の様子	
【補足事項】 週1回の研究員による清掃箇所やI P M (総合的有害生物管理) の実施箇所を決め、清掃等を行った。 効果の客観的判断のため、部分的に生物生息調査も実施した。 館内の温湿度については合計121箇所のセンサーやデータロガー、毛髪計を設置、測定を継続した。 空気環境については年2回のパッシブインジケーターによる酸・アルカリ測定(14箇所)、月1回の検知管による空気環境測定(19箇所)を実施した。			
【年度計画に対する総合評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 データの蓄積と結果の分析および迅速な対応により、空調機の不具合や空気環境の悪化などを早期に発見し、空調機の調整や研究員による換気作業などを行なった。竣工後間もない不安定な保存環境を注視しつつ、常時モニタリングのうえ必要な環境整備を施し、結果として生物被害の拡大を未然に防いだ。 また、10月の移管から11月の開館まできわめて限られた期間の中で、開館時には温湿度や空気環境の問題は解消され、環境面の懸念要素がない状態で安全に展覧会を開催したことは特筆すべき実績と判断した。	
【中期計画記載事項】 適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。			
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 開館にあたり、展示・保存環境について各種データの蓄積および分析、対応を、館内担当者と外部の施設等関係者との連携において綿密かつ迅速に行うことができたため、懸念が生じた場合でも早期での対応ができた。今後もこうした協力体制の維持が重要であると考え。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 3) 有形文化財の修理 3)-1計画的な修理及びデータの蓄積 3)-2科学的な技術を取り入れた修理							
【年度計画】 ・ I-1-(1)-②-3)-1 (4館共通) ア、イ、(東京国立博物館) ア ・ I-1-(1)-②-3)-2 (4館共通) ア、(東京国立博物館) ア								
担当部課	学芸研究部保存修復課			事業責任者	課長 和田浩			
【実績・成果】 I-1-(1)-②-3)-1 (4館共通) ア 保存修復課の修理技術者を中心に、館内で館藏品、寄託品の本格修理および応急修理を行った。必要に応じたX線CTスキャナ等各種機器の活用によって作品の状態や処置が必要な箇所を把握しつつ、作品の劣化予防のために69件の本格修理および1,087件の応急修理を実施した。 イ データベース構築のために、4年度に修理が完了した31件の修理内容についてデジタル化を実施し、その成果をもとに『東京国立博物館文化財修理報告書24』を刊行した。当該修理報告書は4年度より紙媒体から電子書籍へと移行し、より多くの国内外に向けて発信している。 (東京国立博物館) ア 機構の保存科学研究員および館藏品の担当研究員、機構内外の修復技術担当者の業務状況、館藏品の修理に費やせる予算規模、修理の緊急度などを勘案して、重要文化財41件を含む69件の本格修理を実施した。 I-1-(1)-②-3)-2 (4館共通) ア 館藏品修理の際に、X線CTスキャナやハンドヘルド蛍光X線分析装置などで科学分析調査を行うことで、作品構造や材質、劣化状況についての情報が得られ、修理方針策定に役立てた。 (東京国立博物館) ア X線CTスキャナやハンドヘルド蛍光X線分析装置を用いて、「加彩侍女」(北魏時代・6世紀 中国)や「竹菱葵文散蒔絵琴」(江戸時代・文化13年)の損傷と旧修理の状況確認や、掛け軸「阿弥陀如来像」(鎌倉時代・14世紀)の軸内鉛製錘の劣化状態を調査し、適切な修理に役立てた。								
【補足事項】 ・ 重要文化財「小袖 白綾地秋草模様(冬木小袖)」(絹製、尾形光琳筆、江戸時代・18世紀)は文化財活用センター文化財修理ファンドレイジング事業からの寄付金により修理を実施した。重要文化財「臨時全国宝物調査関係資料」のうち宝物目録類(QA-3623, QA-3624)の一部について文化財保存活用基金による本格修理に着手した。								
【評価指標】項目	5年度実績	目標値	評定	経年変化	元	2	3	4
修理件数(本格修理)	69件	-	-		24	44	53	94
修理のデータベース化件数	31件	-	-		19	13	16	24
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 コロナ禍以降の自己収入による修理費が低迷する一方で、寄附金や基金、文化財活用センター貸与促進事業費による修理が増えており、修理件数は安定している。本格修理および応急修理の実施にあたっては、X線CTスキャナ等各種機器による修理前調査を行ない、材質や構造を確認し修理指針の検討に役立てることができた。以上の実績から、所期の計画を遂行できたと評価した。						
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。								
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 中期計画の3年目に当たり、機構の保存科学研究員および機構内外の修復技術担当者が連携して、博物館活動のために最適な作品修理を行なうことができた。本格修理や応急修理に際して、X線CTスキャナ等各種機器を用いて、修理の事前および各段階で計画的に調査を実施して修理指針の検討を行なった。修理案件以外の館藏品についても各種機器を用いた調査を随時進めており、現状の記録および今後の損傷に対する資料として期待できる。引き続き、常駐する修理技術者の数を維持しながら、文化財の安全な活用を担保できる環境を整えたい。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信						
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 3) 有形文化財の修理 3)-1計画的な修理及びデータの蓄積 3)-2科学的な技術を取り入れた修理						
【年度計画】 (京都国立博物館) ・ I-1-(1)-②-3)-1 (4館共通) ア、イ、(京都国立博物館) ア ・ I-1-(1)-②-3)-2 (4館共通) ア、(京都国立博物館) ア、イ							
担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長 永島明子 保存修理指導室長 羽田聡 保存科学室長 降幡順子				
【実績・成果】 I-1-(1)-②-3)-1 (4館共通) ア ・館蔵品中、緊急性の高い、絵画7件、書跡1件、金工1件、考古2件の計11件の本格修理を行った。特に懸案であった「紙本墨画布袋図(善阿印) A甲673、附 紙本墨画布袋図 探幽筆」の本格修理をすることができた。 ・「重要文化財 琴棋書画図 山水図 伝宗継筆」をはじめとする旧大徳寺塔頭養徳院方丈襖絵の5か年計画の4年目の修理を継続して行った。 イ 5年度は109件の新規修理文化財搬入があり、修理品情報のデータベース化を行うとともに、511回の情報更新を行った。 (京都国立博物館) ア 中長期修理計画に基づき、館蔵品の修理を予定通り実施する事ができた。 I-1-(1)-②-3)-2 (4館共通) ア ・保存修理所創設以来の非電子化修理報告のPDF化を進め、5年度は265件の修理記録のPDF化を行った。 ・5年度、所蔵者の協力を得て文化財修理所内工房で実施した科学分析調査は、作品の材質調査としては蛍光X線分析調査8件、分光分析調査1件、顕微鏡撮影1件である。作品の構造調査としては、I.P(Imaging Plate)を用いたX線透過撮影2件、SfM/MVS(Structure-from-Motion and Multi-View-Stereo)による3次元形状調査1件を実施した。 (京都国立博物館) ア 構造調査では、絵画資料の一例として、雲母引きの上下に見られた墨線について、高倍率の顕微鏡画像等から本紙表面の雲母と墨線の先後関係を全紙で調査するなど、修理時に指摘された問題点について、適切な情報を取得し、それを提供することができた。 イ 修理事業に伴う科学調査報告書『知恩院所蔵 国宝「絹本着色阿弥陀二十五菩薩来迎図」』を刊行した。 非破壊的な材料調査では、主として各工房からの依頼により、絵画資料の染料・顔料調査、彫刻資料の彩色調査・飾金具の材質調査を実施し、材料データの蓄積を図った。X線を使用した顔料調査では、絹本の作品について、表・裏彩色ともに調査を依頼される事例が増えてきており、可視光・赤外線を使用した染料調査も実施した。							
【補足事項】   絵画資料の顔料調査 絵画資料の顕微鏡観察							
【定量的評価】項目	5年度実績	目標値	評価 経年変化	元	2	3	4
修理件数(本格修理)	11件	-	-	12	12	9	7
修理のデータベース化件数	109件	-	-	171	137	124	160
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 例年同様、文化財修理所各工房からの修理前・後の科学的調査の依頼を受け入れ、構造調査や使用材料等の調査を行った。5年度は、修理事業にともない実施した科学調査の報告書を刊行するなど、得られたデータを広く公開することができた。特に彩色材料では、複数の分析手法による有機・無機材料の同定を行う事例も増えつつあり、精度の高い情報提供を行うことができた。					
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。							
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 5年度はX線CT撮影、X線透過撮影、蛍光X線分析、分光分析、顕微鏡観察等の多様な非破壊的手法を用いて、作品材質に応じた調査を実施できた。有形文化財の科学調査では面的な調査の必要性が高まりつつあり、これらの測定装置の導入が課題ではあるが、今後も継続的に調査を進めデータを蓄積し、修理技術者とのデータ・知識の共有を図るとともに、成果の発信に努める。					

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理 3)-1 計画的な修理及びデータの蓄積 3)-2 科学的な技術を取り入れた修理								
【年度計画】 ・ I-1-(1)-②-3)-1 (4館共通) ア、イ、(奈良国立博物館) ア、イ、ウ ・ I-1-(1)-②-3)-2 (4館共通) ア、(奈良国立博物館) ア、イ									
担当部課	学芸部			事業責任者	保存修理指導室長 鳥越俊行				
【実績・成果】 I-1-(1)-②-3)-1 (4館共通) ア 所蔵品本格修理7件のうち、新規4件、4年度からの継続事業3件を実施した(内訳: 絵画4件、彫刻2件、考古1件)。修理は、5年度に6件が完了し、絵画1件は6年度に継続して行う。 イ 『奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書』第6号を2月に刊行した。また、修理報告資料を整理しデータベース化に努めた。 (奈良国立博物館) ア 本格修理として、「絹本着色十二天像」等の修理に取り組んだ。 イ 平成22年度に策定した所蔵品の長期修理計画に基づき、修理を計画通りに実施した。 ウ 寄託品所蔵者と協議を行い、寄託品2件について当館の推薦による財団からの助成を受けて修理を実施した。 I-1-(1)-②-3)-2 (4館共通) ア 紙文化財の修理を行っている当館文化財保存修理所の文化財保存担当職員と共同で修理文化財の紙質調査を行い、修理方針の検討資料とした。 (奈良国立博物館) ア 文化財保存修理所で修理を行った木造彫刻作品について、4年度に引き続き京都大学生存圏研究所と連携して樹種同定調査を行った。同定結果は修理に活用した。(実施計1件) イ 所蔵品や寄託品の修理の際に、当館が保有する光学機器を用い、当館研究員と文化財保存修理所工房職員が共同で赤外線撮影や蛍光X線分析、X線CT等を実施するとともに、修理方針の検討資料とした。									
【補足事項】 ・ 所蔵品修理を目的とした募金箱について、従来の設置場所以外に「新たに修理された文化財」展の会場に設置した。 ・ 寄託品修理として、新規に「絹本着色鳥羽天皇像」の1件を着工した。住友財団の助成により2か年継続で修理を行っており、6年度末に修理完了の予定。「木造彩色宝珠台」も住友財団の助成により4年度から2か年の予定で修理を実施しており、5年度に修理が完了した。 ・ 当館の所蔵品や寄託品の修理に際して、文化財保存修理所の各工房と当館研究員が共同で文化財調査を実施し、データの収集・共有化に努めた。これらの調査を円滑に実行するため、当館に設置されている光学機器(高精細デジタルカメラ、近赤外線カメラ、蛍光X線分析装置、X線透過撮影装置、X線CT装置など)を積極的に利用し活用を図った。									
【定量的評価】項目		5年度実績	目標値	評価	経年 変化	元	2	3	4
修理件数(本格修理)		7件	—	—		8	7	3	6
修理のデータベース化件数		58件	—	—		74	70	55	53
【年度計画に対する総合評価】 評価: B		【判定根拠、課題と対応】 4年度から実施している継続事業による修理のほか、新規事業による修理にも着工でき、計画的に修理を実施することができた。また、本格修理及びデータベース化の件数は、予定通り進行し、年度計画を実行できた。さらに、京都大学と引き続き連携して彫刻作品の樹種同定調査を行うとともにCT調査も実施するなど、修理所との連携を進めた。以上の理由から、Bと評価した。6年度も必要に応じ各種の調査を実施することで、よりよい修理のためのデータ取得と活用を図る。							
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品は、機構の保存科学研究員と機構内外の修理技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備を更新し充実を図る。									
【中期計画に対する評価】 評価: B		【判定根拠、課題と対応】 財団助成や寄附金、募金等を活用し、緊急性の高いものから順次修理を実施することができた。また、当館保存担当研究員と文化財保存修理所の修理技術者が連携し、X線CTやX線透過撮影、蛍光X線分析などを実施することで、適切な修理の基礎資料としたことより、中期計画は順調に進んでいる。 保存科学担当者と修理技術者が、修理前や修理中の文化財に対して繊維同定や樹種同定などの科学分析を行うことで、適切な修理のための基礎資料とするとともに、その成果をふまえて計画的な修理を実施した。絵画作品に対して赤外線撮影を実施し修理に活用することにより、文化財の修理指針の検討に役立てた。 以上の理由からBと評価した。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 3) 有形文化財の修理 3)-1計画的な修理及びデータの蓄積 3)-2科学的な技術を取り入れた修理								
【年度計画】 ・ I-1-(1)-②-3)-1 (4館共通) ア、イ (九州国立博物館) ア ・ I-1-(1)-②-3)-2 (4館共通) ア、(九州国立博物館) ア									
担当部課	学芸部博物館科学課				事業責任者	課長 木川りか			
【実績・成果】 ・ I-1-(1)-②-3)-1 (4館共通) ア 館蔵品を中心に、損傷状況や展示計画などを勘案のうえ、優先順位の高い文化財21件について本格修理を実施した。また、損傷の軽微な文化財9件について応急修理を実施した。 イ 28～29年度分の修理報告書を刊行し、データベースにも登録した。 (九州国立博物館) ア 毎年継続的に修理を行っている重要文化財「対馬宗家関係資料」について、4件の本格修理を実施した。 ・ I-1-(1)-②-3)-2 (4館共通) ア 重要文化財「対馬宗家関係資料」等の紙を素材とする文化財5件の本格修理に伴い、本紙剥落片を利用した紙質調査を行い、補修紙作製に役立てるとともに、作品の学術情報として記録した。 (九州国立博物館) ア 修理方針の策定等のため、台付鉢形土器や漆塗台付灯のX線CTによる構造調査など7件の科学調査を行った。									
						 漆塗台付灯のX線CT撮影調査 (下：撮影画像)			
【補足事項】 ・ I-1-(1)-②-3)-1 (4館共通) ア 当館経費による修理件数は30件 (本格21件、応急9件) 内訳：絵画5件 (本格5件)、書跡1件 (本格1件)、漆工5件 (応急5件)、染織1件 (本格1件)、考古資料11件 (本格9件、応急2件)、歴史資料5件 (本格5件)、民族資料2件 (応急2件)。									
【定量的評価】 項目		5年度実績	目標値	評価	経年変化	元	2	3	4
修理件数 (本格修理)		21件	－	－		31	20	17	20
修理のデータベース化件数		131件	－	－		108	128	120	201
【年度計画に対する総合評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 目視調査とX線CT等による科学調査を行い、状態を正確に把握した上で、作品それぞれの状態に合わせた本格修理及び応急修理を適切に行い、年度計画を遂行したことから、B評価とした。						
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。									
【中期計画に対する評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 伝統的な修理技術と最新の科学調査により、緊急性の高い作品から順次、計画的かつ正確に修理を実施した。中期計画を円滑に遂行し、着実に課題解決に取り組んだことからB評価とした。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 3) 有形文化財の修理 3)-1計画的な修理及びデータの蓄積 3)-2科学的な技術を取り入れた修理								
【年度計画】 ・ I-1-(1)-②-3)-1 (皇居三の丸尚蔵館)ア、イ									
担当部課	調査・保存課			事業責任者	調査・保存課長 高梨真行				
【実績・成果】 ・ I-1-(1)-②-3)-1 (皇居三の丸尚蔵館) ア 当館の収蔵品は、国所有のため修理は文化庁において実施する。収蔵品のうち修理、保存処理を要する緊急性の高いものについて、文化庁と調整・協議を行った。また、宮内庁事業として開始された本格修理5件について、文化財機構に移管後も文化庁に引き継がれたため、修理方法等について文化庁と調整・協議の上実施された。 イ 展示及び調査に必要な応急的な剥落止めなどを実施した。また、日常的に必要な作品の手入れ管理を実施した。以下の絵画4件(16点)および染織1件、漆工1件について、応急処置を行なった。									
絵画 ・ 山本芳翠《遼陽附近写生図》 1件 (12点) ・ 上野山清貢《阿寒遠望図》 1件 (1点) ・ 鹿子木孟郎《桂浜》 1件 (1点) ・ モハマド・シェイフル・イスラーム《昭和天皇・香淳皇后御肖像画》 1件 (2点) 染織 ・ コレット・ヴァン・スティヴォート《歌う鳥》 1件 漆工 ・ 島田佳矣他 風菊文様飾棚 1件									
					応急処置の様子				
【補足事項】 本格修理 文化庁事業として、当館との連携の上、実施された。絵画1件、刀剣4件 応急修理 絵画4件(16点)、染織1件、漆工1件									
【定量的評価】項目		5年度実績	目標値	評価	経年変化	元	2	3	4
修理件数(本格修理)		-	-	-		-	-	-	-
修理のデータベース化件数		-	-	-		-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 日常的に収蔵品の管理を適切に行い、修理が必要な緊急性の高い収蔵品について、文化庁と協議するとともに、必要な収蔵品については応急修理を実施した。						
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。									
【中期計画に対する評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 修理が必要な収蔵品について、文化庁と協議を進めながら適切に計画を立て実施した。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 4) 文化財修理施設等の運営		
【年度計画】 ・ I-1-(1)-②-4) (京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) ア、イ			
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長 森考平 保存修理指導室長 羽田聡
【実績・成果】 (京都国立博物館) ア 文化財保存修理所の整備・充実のため、定期的に工房との修理者協議会を開催（年7回）し、意見交換を行った。 イ ・文化財保存修理所運営委員会を開催（6月1日）し、修理所の運営について審議した。 審議内容 1 令和4年度事業報告について 2 令和5年度事業計画について ・5年度より、運営委員会終了後の未指定文化財の受け入れについて、書面審議により可否を検討することとした。 これにより、修理を必要とする作品を滞りなく受け入れることが可能になった。 ・法律で定められた設備の点検とあわせ、各所老朽化した設備の整備を行った。 法定設備点検 エレベーター点検（毎月1回） 消防設備点検（6月30日・6年1月17日） ほか設備整備 照明LED化工事（6月17日・6年2月3日） 燻蒸庫屋上ファン制御改造工事（7月15日） 写場照明のダイヤル交換工事（11月28日） ・防災体制の充実を図るため、博物館全体での防災訓練に文化財保存修理所内工房職員も参加した（6年3月11日）。平日昼間（10時頃）の地震発生を想定した避難訓練を実施した後、東山消防署の指導のもと、自営消防団（4名）による屋外消火栓訓練と希望者（16名）による消火器取扱訓練を行った。			
 照明LED化工事（2月3日）		 総合防災訓練（3月11日）	
【補足事項】 ア 文化財保存修理所運営委員会は、4年度に続き対面形式で行った。			
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 修理者協議会及び文化財保存修理所運営委員会の開催、防災訓練の実施、あるいは設備の点検や整備など、施設の運営に必要な措置について、ソフト・ハードの両面から取り組んだことから、初期の目標を達成できていると判断した。5年度より新たに運用を開始したばかりの運営委員会後の未指定文化財の受入手続きを滞りなく実施することができた点も、判断の材料としている。	
【中期計画記載事項】 文化財保存修理所等については、国と協力して整備充実を図る。			
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 大規模な改修工事を実施しているとはいえ、昭和55年の開所以来、40年以上が経過していることから、諸設備の老朽化への取り組みは、喫緊の課題となっている。これに対し、工房と協力しながら運営にあたり、迅速かつ適切に対応することで、指定品を中心とした文化財の修理事業を安全に行う施設としての役割を果たし、中期計画3年度として、順調に計画を遂行できていると判断したため。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 4) 文化財修理施設等の運営		
【年度計画】 ・ I-1-(1)-②-4) (京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) ア、イ			
担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長 鳥越俊行
【実績・成果】 ア 文化財保存修理所の窓ガラスに遮光フィルムを貼り、環境の整備を行った。 イ ・文化財保存修理所運営委員会は、毎年度末に開催していたが年度当初に開催することとなったため、5年度は開催せず6年度当初に開催する予定。引き続き修理所の円滑な運用に努める。修理に従事する公益財団法人美術院、株式会社文化財保存、合同会社北村文化財漆工の3工房代表者と当館学芸部で文化財保存修理所協議会を開催（1回目は9月22日、2回目は6年3月11日に開催）し、各工房における修理事業の実施状況、修理所施設の維持・管理、工房内の温湿度や虫害をはじめとする保存環境の改善に関する課題などを討議した。 ・館長を含む当館職員が、定期的に文化財保存修理所各工房の修理実施状況を視察する修理所巡回を4回実施した。			
【補足事項】 ・12月19日から6年1月14日まで、当館西新館第1室において特集陳列「新たに修理された文化財」を開催した。4年度に文化財保存修理所各工房などで修理が完了した6件の当館所蔵品・寄託品等を修理解説パネルとともに展示することで、文化財修理技術を広く一般に理解してもらう機会とした。 ・文化財保存修理所の施設や事業の概要を紹介する案内パンフレットを、新たに修理された文化財展、修理所公開や国内外の修理専門技術者による修理所視察などの機会に配布した。 ・6年1月11日に文化財保存修理所特別公開を開催し、修理の取り組みや修理所各工房の活動を広く知ってもらう機会を設けた。報道関係者4人に加え、一般抽選により、大学生など含め120人の参加があった。			
			
特別陳列「新たに修理された文化財」		文化財保存修理所特別公開の様子	
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 運営委員会及び所内3工房代表者との協議会を2回開催し、修理の実施状況の確認及び保存環境の改善について協議するなど、情報の共有に努め、文化財保存修理所を円滑に運営することができた。また、文化財保存修理所特別公開を開催し、工房や文化財修理についての周知及び理解促進に努めた。以上の理由から、年度計画を着実に実行することができたと判断し、Bと評価した。		
【中期計画記載事項】 文化財保存修理所等については、国と協力して整備充実を図る。			
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 文化財保存修理所を円滑に運用するとともに、X線CTによる修理への応用について、文化財被災時の連携方法について修理技術者と意見交換を行った。また、文化財の修理や修理専門技術者の周知を図り、広く理解促進に努めた。以上の理由から、中期計画を順調に進めることができたと判断しBと評価した。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の管理・保存・修理等 4) 文化財修理施設等の運営
【年度計画】 ・ I-1-(1)-②-4) (京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) ア、イ	
担当部課	学芸部博物館科学課
事業責任者	課長 木川りか
【実績・成果】 (京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) ア ・文化財保存修復施設 4 は、当初から大型文化財、特に木造彫刻の修理を行ってきたが、近年は彫刻の修理案件がない状況が続いている。一方で、大型の国絵図（装こう分野）や大型の棚（漆工分野）など、スペースの関係でこれまで文化財保存修復施設 1～3 及び 6 での修理が難しい作品の修理が増加してきており、文化財保存修復施設 4 を使用して修理を行っている。今後も既存の施設を最大限活用しながら、様々な分野の文化財の修理を受け入れる予定である。 - イ 当館文化財保存修復施設にて、重要文化財「対馬宗家関係資料」4 件の本格修理を含む当館経費による修理事業 29 件及び所有者等負担による修理 33 件、計 62 件の修理事業を実施した。その他、館外で当館経費による 1 件の修理事業を実施した。	
 重要文化財 宗家関係資料の修理監督風景  水牛付き腕輪の修理風景	
【補足事項】 イ ・新型コロナウイルスの5類感染症移行以前には、時差を設けた出勤及び休憩、分散勤務など、新型コロナウイルス感染症対策の指針を遵守しながら効率的、計画的に修理を実施した。 ・5年度に文化財保存修復施設を使用した修理事業件数 内訳：絵画15件（当館経費5件）、書跡3件（当館経費1件）、漆工12件（当館経費5件）、考古資料13件（当館経費11件）、歴史資料17件（当館経費5件）、民族資料2件（当館経費2件） ・文化財保存修復施設で修理した文化財62件中52件、8割以上が九州・山口地区所在の文化財であり、九州・山口地区における文化財修理の拠点としての実績を蓄積した。修理文化財の中には、令和2年7月に起きた熊本県の球磨川水害による被災文化財を含む。	
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 文化財保存修復施設を積極的に活用し、文化財の保存修理を適切に進めた。九州・山口地区における文化財修理の拠点として確実な成果を上げており、この評価に基づきB評定とした。
【中期計画記載事項】 文化財保存修理所等については、国と協力して整備充実を図る。	
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画を円滑に推進している。修理に用いる道具や設備類については、経年劣化や部品の生産終了により、抜本的な修理・メンテナンスを行う必要がある。今後も館内外の関係者と古い道具類の修理活用方法を探りながら、必要な環境整備を継続的かつ計画的に実施し、文化財を安全かつ適切に修理できる設備を維持しながら、中期計画の実現に向けて進めていく。